

中国個人投資家の調査

摂南大学外国語学部 王東明

中国の株式市場、特に流通市場においては、個人投資家を中心に売買され、現在の投資家数はすでに1億人を超えている。このような個人投資家を中心とする市場構造の下、経済成長に伴って、国民の収入や貯蓄および金融資産が増えるなかで、個人投資家はどのように変化し、どんな特徴を持っているかを考察する必要がある。

本報告では、1993年からスタートした『中国証券報』の10年以上の個人投資家調査を中心に、その他の幾つかの調査を加えて、個人投資家の状況を整理し、調査結果をまとめることにする。

以上の調査から、中国の個人投資家は男性が多く、短大卒以上の高学歴の投資家が増えるなか、30歳代と40歳代という若年層を中心に、安定した職業の投資家が大半を占めるという特徴を持っている。そして、個人投資家は大都市や中心都市の都市部および沿海地域等の経済の発達した地域に集中し、都市部における大衆投資家が形成されている。それと同時に、「中間収入者」の投資家が投資の主役となり、株式投資の「ミドルクラス化」も進んでいる。また、投資家調査から、中国の株式市場は制度面の不備や監督管理の問題および非流通株などの問題が存在し、基本的に新興国型の市場であり、「移行経済型市場」の特徴を表わしていることが明らかになっている。さらに、個人投資家の金融資産はアメリカの家計金融資産の構成と似ているので、将来的に、中国は直接金融を重視し、証券投資大国になる可能性もある。それを実現するために、大衆民主主義、つまり市場経済をチェックする仕組みの構築が必要不可欠であると考えられる。